

第1回（仮称）江東区公園マスタープラン策定委員会 議事録（要旨）

日時	令和8年2月9日（月）9時30分～ 11時30分
場所	江東区区役所 7階 71・72会議室
出席者	<p><委員> 荒井 歩 （東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 教授）【委員長】 木下 剛 （千葉大学大学院 園芸学研究院 教授）【副委員長】 伊藤 弘 （筑波大学大学院 芸術系 准教授） 小島 郁子 （プレーパークこうとう） 中安 敬子 （特定非営利活動法人マザーツリー自然学校 理事長） 三村 和子 （公益財団法人東京都公園協会 木場公園 公園長）</p> <p><委員（区職員）> 炭谷 元章 （政策経営部長） 山崎 岳 （危機管理室長） 堀田 誠 （こども未来部長） 石井 康弘 （土木部長） 山田 英典 （土木技術担当部長）</p> <p><事務局> 土木部河川公園課 古木課長、小塊係長、松井、樽井、田野倉、吉田</p> <p><傍聴人> 1名</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員自己紹介 2 区長挨拶 3 委員長、副委員長の選出 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公園の現状と課題及び公園づくりの考え方について (2) 今後のスケジュールについて (3) その他
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・（仮称）江東区公園マスタープラン策定委員会設置要綱 ・（仮称）江東区公園マスタープラン策定委員会 委員名簿 ・資料1：公園マスタープラン策定について ・資料2：江東区の公園 ・資料3：公園の現状と課題・公園づくりの考え方 ・資料4：今後のスケジュール ・参考資料1：アンケート調査集計結果 ・参考資料2：関係団体ヒアリングまとめ ・参考資料3：公園利用実態調査結果 ・参考資料4：地区別公園カルテ・親水公園等カルテ ・意見等回答様式

開会

次第1 委員自己紹介

（各委員自己紹介）

次第2 区長挨拶

大久保区長

江東区は水と緑に恵まれた区であり、都立公園や親水公園など、多くの公園資源がある。一方で、子どもの遊ぶ声やボールの音などに関するご意見もいただいている。これまで看板設置などで対応してきた面もあるが、本来の公園としての役割や目的を明確にしたうえで、区民の皆様に丁寧に説明していくことが必要だと考えている。本マスタープランによって公園が区民にとってより有益で魅力あるものになることを期待している。

次第3 委員長、副委員長の選出

(荒井委員を委員長に、木下委員を副委員長に選出)

委員長

公園を点で捉えがちだが、地区全体の様々なものを含んでいる。公園は地域の状況が反映されやすいものであり、反対に公園からまちに発信することもできるものと考えている。公園はどうしても様々な要望があるため、機能を詰め込んでしまいがちだが、一つの公園で担うことは難しい。マスタープランを策定していくうえでは、安心安全の面では全ての公園においてしっかりとその役割を担えるよう、かつ、地区の特性に応じて公園を作っていく必要があるため、区のビジョン、区民の声をあわせて策定していければと思う。

副委員長

水と緑が区民にとってまちのキーワードとなっているが、緑道や親水公園は区の大きな特徴であり、水と緑のネットワークを活かした公園のマスタープランを検討していくことも大切な視点かと思う。今回、公園に関する独立した計画を策定するということで、江東区の中で公園が、行政にとっても区民にとっても重要視されている表れかと思う。

次第4 議題

【議題1：公園の現状と課題及び公園づくりの考え方について】

事務局

(資料1, 2, 3を説明)

委員

資料1では、マスタープラン策定のきっかけとして、みどりの基本計画における区民のみどりに対する満足度が低下していることがあげられているが、どの地区で満足度が低下しているかなどが分かるか。

事務局

みどりの基本計画に関するアンケートを地区別に分析することは可能かと思う。改めてデータを確認する。

委員

今回のアンケートでは詳細に調査・分析を行っているため、満足度低下の要因も分析できるとよい。

委員

指定管理者としてこれまでいくつかの公園を管理してきたが、地域によってニーズが異なる。地域のニーズに沿った計画を作成し、地域の方に理解してもらうことも必要だと考えている。練馬区で都立公園の立ち上げに携わったが、地域の方の声を聴き、指定管理者としてできること、地域の方に理解してもらえることについて、特性を確認しながら検討すべきである。できればオープンハウス形式の場ができると地域につなげていけるのではないか。

事務局

手法は今後の検討だが、次年度で地区別のニーズ調査をオープンハウス形式で行いたいと考えている。

委員

わかりやすくニーズを捉えた資料づくりだと感じた。木場プレーパークでは江東区から助成金を頂いて活動していた時期もあったとも聞いているが、基本的には区民の志で資金を集め運営する団体である。行政で予算や場づくりをしている自治体もある中で、江東区ではあまりなかった。活動者として、残念に思うことはあったが、資料を見る限り今後変わっていくように感じた。既に活動している団体から意見をもらいながら、マスタープランが策定されるとよい。

事務局

プレーパークについては、資料の中でも取り上げている。常設のプレーパークが必須だと感じていたが、移動型でも整備が可能であるという実態を知り、プレーパークにも様々な形があることを知った。今後はアンケート等を基に、プレーパークのニーズを分析しながら検討していきたい。

委員

江東区は都立公園が多いが、区民の方は公園を区別していない。自然遊びをしようとする、都立公園に遊びに行く子どもたちも多いが、区立公園も色んな使い方ができ、小規模ながらも個性がある公園づくりができるとよい。

事務局

公園群については、今後検討が必要だと考えている。現在の公園の配置、ポテンシャルなど、機能別に分類できるか今後注意深く検討をしていく。

委員

本マスタープランの対象は、区立公園に限定するという認識でよいか。区内には都立公園が多い一方で、都立公園の利活用の方針と異ならないのであれば、都立公園を一つの要素として盛り込むことは可能性としてあると思う。

事務局

都立公園の方針を検討することはできないが、機能を参照しつつ区立公園の機能配置を考えていきたい。また、都立公園管理者にヒアリングをした際には、お互いに機能を補完し合うキャパシティはあるといった話も出ていたため、その点についても今後検討していきたい。

委員

資料2の6ページに記載がある公園における活動の中で、田んぼの学校がある。田んぼの学校の活動の中で作成されたかかしが深川資料館通り商店街に展示されており、公園の活動がまちににじみ出しているという点で特徴的だと考えている。

事務局

横十間川親水公園の田んぼは、当時小学校と連携して区の職員が管理をしていたが、職員で管理をすることが難しくなり、現在はボランティアの支援のもと活動をしている。都会で田んぼに触れる経験は貴重であるため、継続していきたい。

副委員長

公園で遊ぶこどもの声が騒がしいなどの苦情がある中で、柔軟な公園の活用の方針に掲げ、区長からの話のとおり看板を立てて対応されている。しかし難点として、本来は近隣住民からの苦情により立てられた看板が、行政の意図だと思われてしまうことがあげられる。近隣住民同士で意見の食い違いが生まれてしまっているという点を区民にも認識してもらう必要があり、そのような点でも、気軽に話し合える場づくりが必要であると感じる。

また、資料3の2ページにおいて、基本方針の②と④は同時にやらないと上手くいかないだろう。④で地域の人が意見を出し、それを聞くことは大事であるが、そのうえで意思決定に積極的に関わっていくことが重要になる。地域住民が積極的に関わっていくための施策が必要だ。

事務局

地域と一緒に、公園をどのように形成していくか他自治体の事例も踏まえながら検討する。

委員

資料3の4ページに記載がある「柔軟な公園の活用イメージ」について、河川公園課の担当領域はハード面が多いかと思うが、プレーパークを作り上げる場合、ソフト面の充実にも力を入れていく必要がある。他部署との連携に関する考えを教えて欲しい。

事務局

他部署との連携は重要だと認識している。今後進める管理運営方式の検討でも、最適な体制を検討していくため、他部署との連携の在り方についても再度委員会でご意見をいただきたい。

委員長

資料2の6ページについて、夏場の暑さ対策はどの自治体でも苦労していると思うが、どのように考えているか。

事務局

ハード面では屋根付きの日よけ整備などが考えられるが、都市公園法の建ぺい率の制限なども含め検討する必要がある。緑陰確保による避暑策もあるが、樹木の維持管理方針を整理したうえで、いかに緑陰を確保できる維持管理を行うかなど、暑熱対策について幅広く検討していく必要がある。なお、今年度から大規模公園改修の際、保護者が子どもを見守るための暑熱対策として、日よけとベンチを設置する事業を実施している。区立公園は数が多いため少しずつではあるが、今後もこのような暑熱対策を進めていきたい。

委員長

全てをハードで整備することは難しい。ハードとソフトの対策に加え、利用者に対してどのように発信していくか、予算を見つつ検討していく必要があると考える。

また、公園の植栽管理についても、生物多様性の観点を踏まえてどのように植物と向き合うかの視点を入れていくと、オリジナリティのある計画になっていくだろう。

事務局

同じ土木部内で、今年度「(仮称)江東区生物多様性地域戦略」を策定している。連携しながら検討していきたい。

副委員長

緑道と親水公園の利用者に対して学生が行った調査では、緑道は目的地までの通過の利用が多いが、自動車と接触することがないため安全であるとともに、緑陰があるといった理由で、近道ではないが緑道等を歩くことを選択する人もいる。このことから日陰や緑陰の視点が大切であることを感じた。

また、出入り口に段差がある緑道や親水公園は、利用者数が少ない傾向が見られた。バリアフリーへの対応ということでハード上の課題として検討していけるとよい。

事務局

バリアフリーに関しては、都の福祉のまちづくり条例に基づいて整備をしている段階ではあるが、100%の状態ではない。今後もバリアフリーに配慮した形で整備を進めていきたい。

委員

木場公園自体が防災公園として位置付けられており、企業と連携した連絡会等も行うが、そのような機会を作らないと区民に認知されず、また指定管理者が設置してくれるものと思われていることが多いが、基本的には防災施設も住民の協力がなければ成り立たない。資料3の4ページに防災イベントの開催とあるが、再整備をする際には地域住民が関わりやすい機会を設けること、また区立公園においては河川公園課と防災の所管課が連携していく必要があるため、その点も検討していただきたい。

事務局

かまどベンチなどの防災施設は、地域のニーズで設置することもある。使い方を説明すると、地域が主体的に使いたいと申し出て、毎年の防災訓練で利用してくれる公園もある。このように、行政が設置して終わりではなく、地域とのつながりをつくっていけるとよい。

委員

連携という点で、例えばかまどベンチを地域の人が利用できているか課題である。プレーパークでかまどベンチを使うこともあるが、地域のこども会と連携して利用するなどして、地域の人が使い方を実際に把握できていると安心できるだろう。

また、資料2の5ページで、指定管理やPark-PFIについて記載があるが、区内でも指定管理で独自の展開をしている公園がある。ただ緑や広場がある公園から、多面的な公園の利用を促進でき、区民の憩いの場として利用価値が上がることを期待される。若洲公園で今後指定管理やPark-PFIがどのように展開していくか、展望があれば教えて欲しい。

事務局

公園と地域の連携については、他自治体の事例を参考に検討を進める。また、民間活力を活用した公

園の管理について、今後の管理運営方針についても検討を進める。

委員長

資料2の5ページにあるとおり、管理体制の検討は非常に重要である。これは将来像のイメージにも関わってくる内容である。公園群の考え方はよい。一方で大きい公園は指定管理が入りやすいが、小規模公園はビジョンが確立していないと参入しにくいだろう。維持管理も含めて検討していく必要がある。

委員

指定管理で管理をしている豊洲公園は様々な取り組みを行っており、公園のバックヤードで行っている畑活動は好評である。連携するにあたり、発信をしていくことが大切である。認知されなければ活用されない。指定管理と組んで活用していく取り組みがあれば、より発展するだろう。建ぺい率の制約により、物置すら置くことができない公園もあると思うが、そのあたりも多くの人に活動してもらうためにはどうすればよいか一緒に検討してほしい。

事務局

指定管理を含めた管理体制について、自主事業ができるポテンシャルのある公園、その他の委託にした方がよい公園など棲み分けを整理する必要がある。

また、建ぺい率は都市公園法で2%という決まりがあるが、条例改正を行う自治体もあるため、必要に応じて引き上げも慎重に検討する。

委員

防災関連の補足として、江東区では災害協力隊を組織しており、災害の際に拠点避難所の開設をお願いしている。町会イベント等では活用しているため、使い方は理解している。しかし、町会や自治会の業務に当たっていない人にどのように周知し、どう関わってもらうかが今後の課題である。活動に参加していない人、地域の活動者、行政の3者で連携し公園を整備できるとよい。

委員

公園がまちなかにあることは望ましいが、実際に家の近くに公園があると、こどもの声や落ち葉、公園灯の明るさなどに関する苦情が出てくる。公園は地域・まちにとって貴重で、みんなの財産だが、その価値が十分に伝わっていない面がある。マスタープランの策定により発信しやすくなるのではないかと考える。小さな公園では、ある程度用途を振り切る必要もあるが、同時に地域の理解が重要である。マスタープランの中で個別公園プランまで落とし込むのは難しいと思うが、地域に理解される内容にしたい。

委員

声の大きな意見が反映されてしまうことがよくあるが、それだけに左右されたくない。バランスをとることは難しいと思うが、そのような想いが正直なところである。

委員長

マスタープランを作るということは、軸を決めてビジョンを作るということ。今日の意見を聞いていて、江東区の中でよりよい方向性にもっていくために大きなビジョンを共有したいと感じた。

【議題2：今後のスケジュールについて】

事務局

(資料4を説明)

副委員長

地区別公園ニーズ調査は重要だと考える。一方で、オープンハウス形式はよいが、強い意見を持つ人の声が大きくなり、意見が漏れてしまう人が出てくるだろう。どこまで意見をくみ取ることができるか、オープンハウスだけでよいか含めて懸念される。

また、ニーズ調査をどのように実施するか、策定委員会で議論する場がないため、委員会ではないにせよ意見交換の場があるとよい。

事務局

いただいた意見をホームページに公開する、公園に掲示するなどしてニーズに答えられる体制を整えたい。またニーズ調査の前に事前に委員の意見も伺いながら検討を進めたい。

委員長

ミニイベントのイメージは具体的にあるか。

事務局

具体的にはこれから検討するが、休日に親子で立ち寄りやすいように何かイベントを行うこと、また休憩できるベンチを設けて、多様な世代が立ち寄ることができるブースを設けて、偏りない意見を聞くことができる環境を整えたいと考えている。

委員長

非常によい発想とは思っている。小さなイベントがあると、普段来ない人が来ることもあってよいか

と思う。他事例なども参考にしながら検討していただけるとよい。

委員

平日と休日の利用者層が異なると思うが、その点はどのように考えているか。

事務局

利用実態調査では平日と休日を分けて実施したが、今回はスケジュールや予算の関係上、幅広い利用者がある休日に調査を行うことを現時点では考えている。

委員長

データをとるということだけでなく、江東区でやっていることをアピール・発信していくことも大切である。

事務局

(次回に向けての事務連絡等)

委員長

以上を持って、第1回(仮称)江東区公園マスタープラン策定委員会を終了する。